

世界へ広がる「純情産地いわて」 ドジャースタジアムで岩手県産農畜産物をPR

世界が集う球場で、岩手県産農畜産物の魅力を発信

本会は、ロサンゼルス・ドジャースとの2026年シーズンパートナーシップ契約に基づき、8月10日から12日までの3日間（現地時間）、米国ロサンゼルス・ユニクロフィールド・アット・ドジャースタジアムで、岩手県産農畜産物のプロモーションを実施しました。

ブランド牛「いわて牛」を中心に、世界各国から多くの来場者が訪れる同スタジアムを舞台に、岩手県産農畜産物の魅力であるおいしさや品質の高さを直接伝える取り組みとなりました。

プロモーションの目的

今回のプロモーションは、「いわて牛」を中心とした岩手県産農畜産物の認知度向上と、「純情産地いわて」のブランド価値向上を図ることを目的に実施しました。ドジャースタジアムという世界有数のスポーツ施設で、食体験、映像広告、PRブースなどを組み合わせて岩手の食の魅力を発信し、今後の販路拡大につなげる契機とするものです。

「いわて牛」・「純情産地
いわて」の認知度向上

岩手県産農畜産物の
魅力発信

ブランド価値向上

今後の販路拡大へ

現地でのプロモーション活動

期間中は、球場内のさまざまな場所でプロモーションを展開しました。大型ビジョン「DodgerVision」やLED広告、球場内テレビネットワークで「いわて牛」のPR動画や広告を放映し、来場者へ幅広く情報を発信しました。また、ドジャースMCが進行する球場内企画にも協賛し、試合観戦の雰囲気の中で岩手県産農畜産物を印象づけました。

さらに、センターフィールド・プラザ（球場入口）とダグアウトクラブ（VIPエリア）にはPRブースを設置し、ノベルティを配布しながら、岩手県産農畜産物の魅力や現地で「いわて牛」を取り扱う店舗情報を紹介しました。多くの来場者がブースに立ち寄り、岩手の食に関心を寄せるなど、現地での対面PRを通じて、岩手県産農畜産物の魅力を直接届ける機会となりました。

【ダグアウトクラブ】
「いわて牛」の提供・店舗情報紹介

【大型ビジョン・LED広告】
PR動画・広告の放映

【特設PRブース】
ノベルティ配布

🏟️ 球場内外で岩手の食をPR 🏟️

現地レポート FIELD REPORT



🏟️ ドジャースタジアムの大型ビジョンで
放映されたPR動画 🏟️



🏟️ ドジャース球団関係者との交流 🏟️



ダグアウトクラブで提供された「いわて牛」



🏟️ PRブースでノベルティを配布 🏟️

成果

- 3日間で「いわて牛」計450kgを約2,500人に提供
- 大型ビジョン・LED広告・球場内テレビネットワークで情報発信
- 国内でのメディア報道によるPR（TV、新聞web版等の約140件の情報発信）

今回の取組を今後の販促活動へ

今回のプロモーションでは、食体験や映像広告、PRブースなどを組み合わせ、現地の来場者に「いわて牛」を中心とした岩手県産農畜産物を紹介する機会となりました。得られた知見や反響を今後の販売促進活動に生かし、岩手県産農畜産物の認知度向上とブランド価値向上につなげていきます。

本会はこれからも「まえむきに ひたむきに」、関係機関と連携しながら、岩手県産農畜産物の魅力を国内外へ発信していきます。



米穀部
米穀対策課
菊池 輝光

昨年度のなんと4倍！ 28名が研修中 ～農産物検査員育成研修～

ただ今、検査現場で実習中

今年3月号で検査員育成研修の募集をした効果か、多くの皆さんに関心を寄せていただき、28名（農家4名）が参加しています。

基礎課程は7月1日に終了、来年2月頃まで米・麦・大豆・そばの現場実習に取り組み中です。実習後の3月頃農産物検査員として登録され、4月以降に岩手県から検査員証の交付を受け正式に検査業務に従事できます。

基礎課程(実技)の様子



実技は5つの班に分かれ、各JAの指導的農産物検査員10名から、検査の基礎から実践的なノウハウまで、丁寧かつ熱意あふれる指導が行われました。ユーモアを交えた指導もあり、和やかな雰囲気が進められました。「普段関わる機会のない方と交流し意見交換できたことが有意義だった」、「分からないことは研修生同士で気軽に確認し合えた」などの感想がありました。

受講の感想(農家の方3名)

●小田中 裕香さん(「写真1」最前列左から2人目)

米倉庫で作業経験はありますが、資格取得に不安はありました。丁寧なご指導で安心して学べました。研修で得た知識と技術を生かし、公正かつ誠実な検査員として職務に努めます。



写真1) 全員笑顔で集合写真

●川村 雄さん(「写真1」前から3列左から3人目)

米農家として幼い頃から米に親しんでいますが、麦やそば、大豆は学ぶ機会はなかったです。経験に基づく丁寧な指導は大変勉強になりました。現場実習に不安もありますがそれ以上に楽しみです。

●川村 奈央さん(「写真2」3班写真前列左から3人目)

農業経験が2年で分からないことばかりで不安でした。力不足を痛感し心が折れそうでしたが、班の仲間の優しい声掛けによりやり遂げられました。



写真2) 班毎にも写真を撮りました

農家・JA職員の皆さんへ

農産物検査は全国共通規格により等級を判定することで、現物確認せず安心取引できる仕組みを支えています。営農で培った経験や知識を生かせる資格であり、副業として活躍できます。

岩手のおいしいお米を確かな鑑定技術により全国の消費者へ届けるため、農産物検査員の資格にチャレンジしてみませんか。

来年度は3月から募集を開始し5月下旬から研修予定です。興味のある方は、各JA米穀担当課またはJA全農いわて米穀部米穀対策課までお問い合わせください。

岩手の農産物の品質と信頼を支える「農産物検査員」を目指してみませんか。

●各事業部プロミス活動●

「純情産地いわて」が目指す「理想像」その3つの柱。

「つなげる」

いわての農業を継承し、
価値を高め、
未来へ繋げる。



「いわてフラワーコンテスト2026」が開催されました

令和8年9月4日(金)～5日(土)

本会は9月4日・5日の2日間、花巻市のなはんプラザで「いわてフラワーコンテスト2026」を開催しました。生産者の栽培技術向上と生産意欲の向上を目的に毎年開催しているもので、今年は岩手県が全国一の生産量を誇るりんどうをはじめ、小菊やトルコキキョウなど151点の花きが出品されました。

審査の結果、最高賞である農林水産大臣賞には、JA新いわての斉藤健吾さんが出品したりんどう「安代の輝き」が選ばれました。

一般公開では、来場者による人気投票やフラワーアレンジメントのワークショップ、県産農畜産物の試食会を実施。生産者や来場者が花きを通じて交流し、県産花きの魅力を広く発信する機会となりました。



花き生産の技術向上へ 学びを深める審査会

プロ野球公式戦で「銀河のしずく」10周年をPR

令和8年9月2日(水)

本会は、盛岡市のきたぎんボールパークで開催された東北楽天ゴールデンイーグルス対オリックス・バファローズ戦にブースを出展し、デビュー10周年を迎えた県産ブランド米「銀河のしずく」をPRしました。

会場では、観戦チケットで参加できる抽選会や、学生を対象とした「お米のグラム当てゲーム」を実施。県産ブランド米やオリジナルグッズが当たる抽選会では、試合開始前から多くの来場者でにぎわいました。

参加者からは「岩手のお米を食べるのが楽しみ」「銀河のしずくの美味しさがもっと広がってほしい」との声も聞かれ、県産米の魅力発信につながる機会となりました。



お米のグラム当てゲームに挑戦する来場者

「ひろげる」

生産者とともに、
その想いを
消費者の食卓へと
広げる。



「根を張る」

地域社会の
一員として、
強く根を張る。



いわてグルージャ盛岡の選手によるりんどう収穫体験

令和8年9月10日(木)

本会は、雫石町のりんどう園場で、いわてグルージャ盛岡の選手による収穫体験を実施しました。県産りんどうの魅力発信と農業への理解促進を目的に、選手たちは生産者から収穫のポイントを学びながら作業に取り組み、産地ならではの魅力に触れました。

収穫したりんどうは、13日に盛岡市のいわぎんスタジアムで行われたホームゲームで活用され、選手がりんどうを持って入場したほか、対戦相手のアスルクラロ沼津のサポーターへ約100束を配布し、県産花きをPRしました。本会といわてグルージャ盛岡は2024年から収穫体験を継続しており、農業とスポーツを通じた地域活性化や県産農畜産物の魅力発信に取り組んでいます。



りんどう収穫体験を行ったいわてグルージャ盛岡の選手と関係者

各事業部の取り組み

各事業部における活動を紹介します。今回は米穀部米穀販売課の取り組みについてです。

岩手県産米の販売促進活動について

「令和の米騒動」とも呼ばれる米価の高騰を背景に、家庭での食事や中食、外食における国産米の消費量減少が全国的な課題となっています。こうした状況を受け、米穀販売課では、「いわて純情米」の消費拡大に向けた取り組みを強化しています。

実需者や主要卸売業者と産地との結びつきを一層深めるとともに、販売促進活動を積極的に展開し、県産米の安定的な需要確保と消費拡大に取り組んでいます。

■実需者と産地・生産者との結びつき強化の取り組み

米穀部は実需者と産地との結びつきを強化することを目的に、取引先を産地に招いた田植えイベントや、バイヤー等と生産者との意見交換会ならびに各種消費拡大キャンペーンを実施しています。

■「銀河のしずく」デビュー10周年記念キャンペーン

県オリジナル品種「銀河のしずく」は今年でデビュー10周年を迎えます。デビュー以降、県内外多くの取引先・消費者にご愛顧いただいた感謝を伝えるとともに、全国での更なる認知度向上・販売拡大を目的として、県外量販店にて新たなキャンペーンを実施します。

■「いわて純情米」アンバサダー 菊池雄星投手

昨年度から引き続き、アメリカで活躍している岩手県出身のアスリート、菊池雄星投手（MLB ロサンゼルス・エンゼルス所属）を起用したCM・ポスター等を展開しています。

お米と野球を通して海外の子供たちと交流する雄星投手の姿が印象的なCMです。



▼ 紅いわてフェア

JA全農直営の飲食店舗（3店舗）で「紅いわてフェア」を開催しています。フェアでは、甘味と酸味のバランスに優れた味わいの岩手県産りんご「紅いわて」をふんだんに使用したオリジナルメニューを提供します。

■期間…令和8年9月28日（月）～10月11日（日）

■実施店舗

- みのるダイニング フェザン盛岡店（盛岡市盛岡駅前通1-44フェザンおでんせ館1F）
- みのりカフェ エスパル仙台店（仙台市青葉区中央1-1-1エスパル仙台 本館2F）
- グリルみのる エスパル仙台店（仙台市青葉区中央1-1-1エスパル仙台 東館3F）

■メニュー画像

（みのるダイニング フェザン盛岡店）



紅いわての丸搾りジュース



紅いわての焼きりんごパフェ

■メニュー画像

（みのりカフェ エスパル仙台店）



紅いわてのパウンドケーキ
ドリンクセット

■メニュー画像（グリルみのる エスパル仙台店）



紅いわてのはちみつレモンコンポート



紅いわてと国産生ハム入りマヨネーズマリネ

紅いわて

岩手県は、りんごの生産量が全国第3位で、りんご栽培に適した土壌や気候を生かしながら、様々なオリジナル品種の開発に取り組んでいます。

「紅いわて」は、「つがる」と「プリシラ」を掛け合わせて誕生した岩手県のオリジナル品種で、濃い紅色の美しい見た目と豊富な果汁、シャリシャリ食感や糖度15度程度になる強い甘みが特徴です。





此処から、
強くなるために

いわて純情米アンバサダー 菊池 謙皇

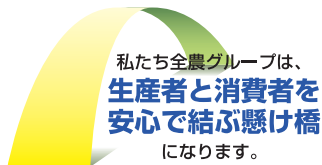


編集後記

食欲の秋がやってきました。
心もおなかも満たされる岩手の農畜産物を食べて、おいしい秋を満喫しましょう。 (仲村)

KLARA

タイトルのKlara (クララ) は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。
全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかになるという願いが込められています。



— 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。 —

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 純情ブランド推進室
JA 全農いわて ホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8629 FAX019-626-8634
<https://www.junjo.jp>

